

平成三十一年学力検査

全日制課程 A

第一時限問題 国語

検査時間 九時十分から九時五十分まで

「解答始め」という指示があるまで、次の注意をよく読みなさい。

注 意

- (一) 解答用紙は、この問題用紙とは別になっています。
- (二) 「解答始め」という指示で、すぐ受検番号をこの表紙と解答用紙の決められた欄に書きなさい。
- (三) 問題は(1)ページから(9)ページまであります。(9)ページの次からは白紙になっています。受検番号を記入したあと、問題の各ページを確かめ、不備のある場合は手をあげて申し出なさい。
- (四) 答えは全て解答用紙の決められた欄に書きなさい。
- (五) 印刷の文字が不鮮明なときは、手をあげて質問してもよろしい。
- (六) 「解答やめ」という指示で、書くことをやめ、解答用紙と問題用紙を別々にして机の上に置きなさい。

受検番号

第

番

国語

一次の文章を読んで、あとの(一)から(五)までの問いに答えなさい。

著作権の関係上、文章を表示しておりません。

著作権の関係上、文章を表示しておりません。

著作権の関係上、文章を表示しておりません。

(ハナムラチカヒロ『まなざしのデザイン

—「世界の見方」を変える方法』による)

(注) ○ ① ② は段落符号である。

○ ブレンド||ませ合わせる。

(一) 第一段落の中で、筆者は生命が眼を備えるようになった理由について述べている。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 生命が自らの命を維持するには、生きるために必要な光をできるだけ多く体に取り込むことが求められるから。

イ 生命が環境の中で生きていくには、生存するために必要な情報を広範囲にわたって捉えることが求められるから。

ウ 生命が環境に適応していくには、光を素早く感知することで他の感覚器官の負担を減らすことが必要だから。

エ 生命が存続するには、自らが生き延びるために収集した情報を引き継ぐ他の生命を探すことが必要だから。

著作権の関係上、文章を表示しておりません。

(二) ① 決定的に違う能力 とあるが、その説明として最も適当なものを、

次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 人間の眼には、物体に反射した光にさまざまな想像を重ね、さらには見えないものまで想像する力がある。

イ 人間の眼には、対象に応じて想像を使い分け、生存するために必要なあらゆる情報を見抜く力がある。

ウ 人間の眼には、環境を味方につけ、他の生物との生存競争に勝つために必要な情報を想像する力がある。

エ 人間の眼には、受け止める光の割合を増やし、光から派生した多くの想像を働かせて対象を見る力がある。

(三) ② 環境にある情報を単に見るだけではない とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 人類は、他の生命にはない想像力を用いることにより、自らを特殊な能力をもっている存在と見なすことができるということ

イ 人類は、想像から切り離して客観的に対象を見ることにより、環境を自由につくり変えていくことができるということ

ウ 人類は、特別な眼の構造をもつことにより、自らが知覚できる範囲を自在に調整しながら想像を補うことができるということ

エ 人類は、さまざまな角度から対象を眺めて想像を加えることにより、新たなものや道具までつくり出すことができるということ

(四) ③ 他の生命とは全く異なる生存戦略 とあるが、人類の生存戦略の特徴を動物と比較して要約し、六十文字以上七十文字以下で書きなさい。ただし、「適応」、「文明」、「過剰な想像力」という三つのことばを

全て使って、「人類は、……」という書き出しで書き、「……生き抜いてきた。」で結ぶこと。三つのことばはどのような順序で使ってもよい。

(注意) ・句読点も一字に数えて、一字分のマスを使うこと。

・文は、一文でも、二文以上でもよい。

・次のページの枠を、下書きに使ってもよい。

(五) 次に示した文章と会話文は、Aさんが本文を読んで「空想」についてまとめた文章と、それをもとにBさんと意見交換をした会話文である。文章と会話文を読んで、あとの①と②の問いに答えなさい。

(Aさんがまとめた文章)

筆者は、「空想」が人間の知性を支えていると述べています。「空想」の特徴として、そこに存在するものを想像すること、そこに存在しないものを想像すること、どこにも存在しないものを想像すること、の三つがあります。特に三つ目は非常に重要です。この三つ目の力は、一つ目の物事の認識や解釈、二つ目の回想や予想にも大きな影響を及ぼしていて、物事の性質や特徴などを「X」して把握することも可能になると述べています。つまり、「空想」は、人間のさまざまな思想に関わっているといえます。こうした点から、「空想」が人間の知性を支えていることがわかります。

(会話文)

Aさん 「空想」の特徴を三つにまとめたけれど、どうでしょう。

Bさん まず、Aさんがまとめた三つの特徴は、「空想」の特徴で

はなく、過剰な想像力の特徴をまとめたものです。その中の三つ目が「空想」の説明になると思います。

Aさん 「空想」は過剰な想像力の一部ですが、人間にとつて大変重要な力だということですね。その他はどうですか。

Bさん 「空想」が物事の認識や解釈、回想や予想に大きな影響を及ぼしている理由にも触れるべきではないでしょうか。私は、本文から、「空想」は「Y」であるからこそ、認識や予想などに影響を及ぼすことができるのだと思いました。

Aさん なるほど。存在しないものを想像するということは、頭の中でどのようにでも想像できるということだから広がりをもつんですね。

Bさん そうです。その他にも「Z」ということが気になります。物事を「X」して捉えることができると筆者が述べていることから「Z」に結びつけたのだと思いますが、「Z」については、辞書に、生活や行動を規定する考え、という説明もあり、このことばの使い方については、もう少し検討する必要があると思います。

Aさん そうですね。指摘されたことを整理して、書き直してみます。私はこの文章を読んで、人間の「空想」も、創造的な考えを生み出すきっかけの一つになると思いました。

(問い)

① 「X」と「Y」にあてはまる最も適当なことばを、本文中からそのまま抜き出して、「X」は三字、「Y」は五字で書きなさい。

② 「Z」にあてはまる最も適当なことばを、Aさんがまとめた文章の中からそのまま抜き出して、二字で書きなさい。

※ 左の枠は、(四)の下書きに使ってもよい。ただし、解答は必ず解答用紙に書くこと。

人	類	は																		
---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

70 60

二 次の(一)、(二)の問いに答えなさい。

(一) 次の①、②の文中の傍線部について、漢字はその読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

① 玄関に、陶製の犬の置物を掘える。

② 今後の福祉政策のあり方についてキョウギをすすめる。

(二) 次の③の文中の傍線部と同じ漢字を用いるものを、あとのアからエまでの中から一つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

③ この町には、古くから受け継がれてきた民間デンシヨウがある。

ア 資料集に掲載されている図版をサンシヨウする。

イ 皆のリョウシヨウを得て、彼が委員長を務めることになった。

ウ 休憩時間には生徒たちが楽しげにダンシヨウする姿が見られる。

エ 音楽の授業で「ふるさと」をクラス全員でガッシヨウした。

三 次の文章を読んで、あとの(一)から(六)までの問いに答えなさい。

著作権の関係上、文章を表示しておりません。

著作権の関係上、文章を表示しておりません。

著作権の関係上、文章を表示しておりません。

著作権の関係上、文章を表示しておりません。

(長田弘『読書からはじまる』による)

(注)

- ①②は段落符号である。
- あつらえるは注文してつくらせる。
- 体系は一定の原理に基づいて組織された全体。
- グローバル・スタンダードは国際標準。
- ベルファストはイギリス、北アイルランドの中心都市。
- 器量ここでは、人の心の大きさのこと。
- ソリッドさここでは、かたちがあるということ。
- 勘どころは必ずしてはならない最も重要なところ。

(一) ① その順序を逆にして考えるほうがいい とあるが、筆者は言葉と人の関係をどのように考えているか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 私たち人間は、毎日の経験を通して言葉を覚え、大人になるにつれて言葉を道具としてつかいこなしてきた。

イ 私たち人間は、古い言葉を覚えることで、言葉には自分たちよりも長い歴史があることを自覚してきた。

ウ 私たち人間は、すでに言葉がある中に生まれ、周囲にある言葉を自ら覚えることで人として成長してきた。

エ 私たち人間は、生活に必要なものをつくるだけでなく、生活を変え、えるために必要な言葉もつくり出してきた。

(二) ② 言葉は、人の道具ではなく、人の素材なのだ とあるが、筆者がどのように考える理由として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 人は言葉を自分のものにすることで他者とのつながりを認識し、他者との関係の中で自分の存在を確認することができるから。

イ 人は生まれると同時に多くの言葉を覚え、日常的につかうことによつてより人間らしい生活を営んでいくことができるから。

ウ 人は長い時間をかけて言葉の体系を覚えていく過程で、人と人とのつながりを自らつくり出していくことができるから。

エ 人は言葉を用いて他者とのつながりをつくり出し、新しい技術によつて自分は孤独な存在ではないと確かめることができるから。

(三) 「A」、 「B」 にあてはまる最も適当なことばを、次のアからキまでのの中からそれぞれ選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア やがて イ せめて ウ むしろ エ しかし

オ たとえ カ すると キ それとも

(四) 第三段落の中で、筆者は「世界の通用語」について述べている。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 国境を越えて働きに行く人たちが増えてきたため、どの国でも通用する最小限の基準が必要であり、その基準を満たしている言葉が世界の通用語となる。

イ 人々をつなぐ基準が世界的に共通になつていくため、地域性の違いを乗り越え、表情や身ぶりといったコミュニケーションを必要としない言葉が世界の通用語となる。

ウ 人々の交流が世界的に広がつていくため、それぞれの違いを認めるコミュニケーションが求められており、不完全であっても違いを大切にしている言葉が世界の通用語となる。

エ 言葉とはそもそも地域性に根ざしたものであるため、互いの言葉の違いを認め、伝えるためのさまざまな工夫を受けいられる言葉が世界の通用語となる。

(五) 次の文章は、第四段落以降の内容を、ある生徒がまとめたものである。①から⑨までの文の中から、本文に書かれていない考えを含むものを一つ選んで、その番号を書きなさい。

① 言葉とはそもそも地域性に根ざしたものであるため、互いの言葉の違いを認め、伝えるためのさまざまな工夫を受けいられる言葉が世界の通用語となる。

② 次の文章は、第四段落以降の内容を、ある生徒がまとめたものである。①から⑨までの文の中から、本文に書かれていない考えを含むものを一つ選んで、その番号を書きなさい。

③ 言葉とはそもそも地域性に根ざしたものであるため、互いの言葉の違いを認め、伝えるためのさまざまな工夫を受けいられる言葉が世界の通用語となる。

④ 次の文章は、第四段落以降の内容を、ある生徒がまとめたものである。①から⑨までの文の中から、本文に書かれていない考えを含むものを一つ選んで、その番号を書きなさい。

① 挨拶や手紙、電話は、相手を想定し、他者の存在を必要としたものであり、メディアの言葉も、伝える相手の存在が前提であって他者なしには存在しないものだといえる。② 日常の言葉の多くは、他者が感じられる、あるいは、他者を確認する方法としての言葉である。

③ 一方、本の言葉、歌や映画、マンガやドラマの言葉は、登場人物と自分が同じである、そこに自分の世界があると感ずることのできる言葉である。④ 私たちは、これらの言葉を通じて、自分を確かめているといえる。⑤ このとき、私たちは虚構の世界に自由に心を遊ばせ、登場人物とともに生きているといえるのである。⑥ こうした自分を確かめる言葉のあり方は、いつの時代も個人的である。⑦ それは、かたちとして見ることでできない、心の働きに関わっているからである。

⑧ 技術革新が進み、他者を確認する言葉の技術が大きく向上している。⑨ しかし、どれだけ技術革新が進んだとしても、私たちは、心の働きといった、言葉でしか感受できないものの存在に、言葉によって気付くことができる。

(六)

次のアからオまでのの中から、その内容がこの文章に書かれた筆者の考えに近いものを二つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 国際化が進展し、世の中に存在する多くの基準が世界で共通のものとなっている。したがって、今後、言語の分野でグローバル・スタンダードとなるものは、世界の通用語である英語だといえる。

イ 人は生活を支えるさまざまなものをつくり出してきたが、言葉はずっと昔から私たちの周りにあるものである。そして、私たちは言葉を覚えることで、自分が一人ではないと知ることができる。

ウ 技術革新が進むことで社会が急速に変化している。そのため、私たちのコミュニケーションのあり方も大きく変わり、人は言葉から他人の気持ちを理解することが難しくなっている。

エ 自分を確かめる方法は一人で行うものばかりではない。たとえば、読者がマンガの登場人物の言動に共感しているときは、作者と読者双方が世界を確かめ合っている場面だといえる。

オ 具体的にかたちで示すことができないものは、言葉でしか表すことができない。したがって、私たちは社会や現実といった抽象的な物事や考えを言葉によって理解し、実感しているのである。

四 次の古文を読んで、あとの(一)から(四)までの問いに答えなさい。(本文の……の左側は現代語訳です。)

小式部が「大江山いくのの道」、周防内侍が「春のよの夢ばかりなる」、いせの大輔が「けふ九重にほひぬる」などよみし。これらは、

思案のいとまなく、すぐによみ出だしたる歌なり。これらは、つねづね時間をかけることなく

此の道に心を染めて、行住坐臥、見るもの、聞くものにつけて、その心を深く寄せて、日常のあらゆる時に

心を放たず、執しけるゆゑ、かやうのめでたき歌も出できたる事なり。深く思つていたため

「もとより、此の道の堪能なれば、さも有るべき」といへる人も有るら名手であるので、あるだろう、あるよ

めど、それは自棄といへるものなり。たれ人にもせよ、日本に生まれぬうだが、投げやり

る人、^③いづれか歌情のなき事は有るまじ。「舜も人なり、我も人なり」

と、もろこしの学者のいひけんもむべなり。つとめて学び、好みもて行くと、^④中国、そのとおりである

けば、自然と天地にも感応の歌、出でくる事、うたがひなし。

天地の神々の心を動かす歌

(『初学考鑑』による)

(注) ○ 小式部・周防内侍・いせの大輔は平安時代の歌人。

○ 此の道はここでは、和歌をよむこと。
○ 舜は古代中国で理想的な政治を行ったとされる伝説の王。

(一) ^① その心を放たず とあるが、これはどのような態度を表しているか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 先人の教えを守る イ 和歌に没頭する

ウ 友人を信頼する エ 仏道修行に集中する

(二) ^② さの内容として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 即座にすぐれた歌をよんだこと

イ 日頃から和歌を準備していたこと

ウ 以前に作った歌を発表したこと

エ 後世にまで和歌が残ったこと

(三) ^③ いづれか歌情のなき事は有るまじ の現代語訳として最も適当なもの、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア どのように和歌をよむ心を生み出せばよいのか

イ どんな人に和歌をよむ心は生まれるのだろうか

ウ どんな人にも和歌をよむ心はあるにちがいない

エ どこにいても和歌をよむ心をなくしてはいけない

(四) 次のアからエまでのの中から、その内容がこの文章に書かれていることと一致するもの一つを選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 本心にすばらしい和歌はどの国の人でも感動させることができる。

イ 和歌は心に感じたことを飾らずにできるだけ早くよむのがよい。

ウ 和歌がすぐによめないことを才能のせいにしては名を残せない。

エ 日頃から徹底して和歌に打ち込むことすばらしい歌が生まれる。

(問題はこれで終わりです。)